

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年3月22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200700		
法人名	(有) 藤山商事		
事業所名	グループホーム 縮景園		
所在地	広島市中区上幟町5番17号 (電話) 082-511-1121		
自己評価作成日	平成31年1月	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200700-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島市安芸区中野東4丁目11番13号
訪問調査日	平成31年3月22日(金)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は広島市の中心部に位置しており、近くのデパートまで散歩しながら行く事が出来ます。目の前には名勝縮景園とその隣には美術館があります。そして春になれば縮景園にお連れする事が出来ます。入居者様には毎日の生活を「ゆっくり・ゆったり」をモットーにした当施設でその人、その人のペースで生活が出来る様支援し環境作りに職員一同頑張っております。母体であります、ワカサ・リハビリ病院より週2回～3回院長先生と正看護師により往診があります。ほとんどの入居者様が高齢の為日々の健康管理を病院との連携により強化し又、情報を共有し日々努めております。入居者様と御家族が毎日安心して信頼のできる施設の体制作りを日々一生懸命行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム縮景園は、市の中心にあり、バス・電車の便もよく縮景園・県立美術館等、散歩コースにも最適である。又、鉄筋5階建てビルの2・3階部分を活用している。リビングルームは、高級感のある調度品が揃っており、落ち着いた雰囲気がある。施設は、利用者最優先の考えで本人本位の意思を大切にしている。そして、統括責任者のきめ細かな心遣いを若い職員が受け継ぎつつ、健康管理に努めると共にホームの理念である「明日のことを思いわずらう事よりも、今日一日を、輝いて」をモットーに日々を笑顔で過ごせるよう支援に努めている。

グループホーム 縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日朝の申し送り終了後にその日の出勤職員と夜勤者で事業所の「理念」を大きな声で御唱和をし、夜勤者のねぎらいと日勤職員の仕事スタートにけじめをしっかりとつける事によりその日の実践につなげている。	理念である「明日のことを思い煩うよりも、今日一日を輝いて」を事務所に掲示して、朝の申し送り時に皆で、唱和し、それを基に日々の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域との交流が難しい中で施設前の道路端から端までをきれいにする事により地域の皆様に少しでも気持ち良い一日を過ごしていただけたらと職員が毎日清掃を行っている。	地理的に周りはマンションやビルが多く、地域との交流が難しいところがあるが、率先して施設の周りを毎朝、掃除をしながら、通りがかりの人に明るく挨拶をかわし、気持ち良く一日のスタートが切れるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	見学される方の中で親の認知症で悩んでおられる方が大変多く見学が悩み相談になる事が多い。少しでも悩みを軽減する様にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には案内状をお送りしている。包括支援センター、民生委員、御家族と皆様の協力の元に意見、情報交換、御家族の意向をお聞きして、職員一同サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。地域包括支援センター職員・民生委員・家族・統括責任者等が参加し、会議では現状報告、行事報告、意見交換等、話し合ってから、検討し、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の報告書を奇数月には送付しており、GH縮景園の状況を知ってもらう様にしている。また、何かわからない事があれば、市に出向き、市の職員よりこちらが理解出来る様説明を受けて実践に活かすよう心掛けている。	日頃から区役所に相談事があれば、出向いている。市からも認知症向け講座講師の依頼もあった。地域包括支援センターから運営推進会議で、アドバイス等頂いたり協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束0」を職員一同心掛けている。今現在身体拘束をするような方はいらっしゃらないが、施設内研修を行い、いつも「身体拘束0」を頭の中に入れ、職員一同ケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わずに介護する全ての方法の可能性を検討し、身体拘束0に向け取り組んでおり、現在身体拘束を行っている方はいない。身体拘束廃止委員会を立ち上げ検討会議を開いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	当グループホームで、虐待は絶対がないが、管理者職員は高齢者虐待防止法等について市の研修を受け学ぶ機会を持ち、スタッフ間で常に情報交換を行っている。身体チェックは入浴時にボディチェックを行い、ボディチェック表に記入し職員がいつでも見る事が出来る様に情報共有をしている。		

グループホーム 縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	統括責任者・管理者・ユニットリーダーは「成年後見人の制度」の研修を受けて、必要性を考えて関係者と話し合いをし、より良い支援が出来る様に心掛けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については専門的な知識を持った十分な説明を行っている。契約者が理解し、また、納得をしていただいた上で同意の署名・押印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	2ヶ月に一度の運営推進会議にて包括支援センター・民生委員・御家族・統括責任者・管理者・ユニットリーダー等で意見・要望をお聞きし、またアドバイスを受けながら運営に反映させている。	運営推進会議や面会時に意見を聞いたり、日常生活の中から聞こえてくる利用者の意見を拾い上げ運営に繋げている。(ホテルでスイーツを食べたい・お茶会に出掛けたい・クラシック音楽を掛けてほしい等)	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は統括責任者・管理者・ユニットリーダーの意見を聞き、又、提案等も聞いて運営に役立てながら理解を示し反映させるようにしている。	月1回のユニット会議に於いて、統括責任者は、言い易い雰囲気づくりを心掛け、職員の意見や要望を聞いている。(排便コントロール・水分摂取等)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は職員が少しでもストレスが溜まらないように、リフレッシュ休暇を取りやすい様に配慮している。また、希望休を月2回取れる様にしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に1度の【ユニット会議】にて統括責任者を主に施設内研修を実施し、職員との意見交換や入居者様の情報共有をしスキルアップをしている。又、入居者様の情報共有をし入居者様のケアに役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	代表者は統括責任者が同業者との交流を大切に、その中で質の向上をしていく上において参考となる事や事例を聞いて参考にしサービスの向上に役立たせる為、管理者・職員共々協力をして支援の取り組みが出来る様にしている。		

グループホーム 縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の悩みを傾聴し不安のない日々穏やかに安心して生活できる様にコミュニケーションを取りながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族様とコミュニケーションを取りながら日々の生活状況を報告しながら安心して頂き、出来るだけ要望等に耳を傾ける様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアマネージャーに暫定のケアプランを立ててもらい、ケアプランに基づいてサービスをし支援する様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「ゆっくり・ゆったり」を基本に入居者様のお一人お一人のペースで生活をして頂き、暮らしを共にする他の入居者様や職員と温かな安心できる生活が出来る様に心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	統括責任者・管理者・職員が御家族様と入居者様のかけ渡しとなりトラブルの無い様、情報を提供し、又、情報交換をし入居者様を支えていく様に心配りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつでも訪問して頂けるような環境作りをしている。また、手紙やはがきを送付する手伝いをし、馴染みの方といつでも縁が切れないよう支援に努めている。	友人、知人の訪問や家族と共に外出し、法事・墓参り・行きつけの美容院等、出掛けたり、わかさカフェで、馴染みになったりと親しい関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤独にならない様、常に職員が声掛けをし話したり傾聴したりすることで孤独にならない様、支援に努めている。又悩みがあれば聞いて側に寄りそうにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了しても御家族からの相談に応じられるようにアドバイザーを中心に支援に努めている。いつでも相談に来られる様にしています。		

グループホーム 縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人に合った生活のあり方や希望の中で出来るだけの意向を受け入れる様に職員が検討会を行いながら支援をする様になっている。	日々コミュニケーションを取る中で、本人のニーズに気付くように努め、ケース記録に記して検討している。 (お花好きな方・ゆっくりしたい方・日記帳を継続してる方等)	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	施設での生活が苦にならないよう生活環境に早く馴染んでもらい今迄の生活歴を理解しながらそばに寄り添い、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝のラジオ体操、口腔体操を一日の始まりに良い心身状態と健康に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月に一度のユニット会議で介護計画書のモニタリングを行いながらその人に合った介護計画書を作成しケアを行っている。	本人や家族から要望を聞き、又、日々の基本動作等の移乗・移動時、食事・排泄動作等を細かくケアチェック表に記して、それらを参考に月1回、モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録を読みながら日々の生活状態を把握し、職員間の情報交換を密にし介護計画書の見直しに役立てながらケアの実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	だんだん進みつつある認知症に不安を感じる事のない様、職員が優しい声掛けと気配り、心配りで毎日を元気に暮らせる様に事業所全体で支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	御自分の心身の力をそれぞれ発揮出来て無理なく心安らぐ生活が出来る様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	母体である病院の医師と正看護師の往診があり身体的な心配もなく安心して頂ける様、少しの体調の変化があっても医師に報告をする事により、医療と介護の連携による支援をしている。	母体である病院のかかりつけ医の往診が、週2回～3回あり、看護師の往診もある。歯科医による往診も月1回あり、健康管理には力を入れている。	

グループホーム 縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週3回の母体である病院の院長と正看護師の安心した生活を送られている。少しでも体調の悪い時はドクターに診て頂き身体的な不安のない様に支援している。又、ナースとも情報共有を常に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされた時には病院での生活が不安でない様に面会に行き病院関係者と情報を共有し、少しでも早く退院出来る様、又、病院での生活の中で不安のない様心のケアをしながら不安と不穏のない生活ができる様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期に向けた説明は医師より説明があり、御本人や、御家族の御要望に沿った支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期の在り方について、事業所で、出来ることを説明した上で、本人や家族の意向を可能な限り聞き、最善で、良い方法を皆で共有するようにし支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを作成し施設内研修もしている。初期対応等に役立てて実践できるよう統括責任者・管理者が常に職員に指導をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協体制度を築いている。	年2回～3回の火災訓練を行っている。入居者様の協力を得て訓練をしている。夜勤時の火災想定訓練もしている。	年2回～3回昼夜を想定して、避難訓練を実施している。点検・検査は、委託業者が行っている。避難訓練は、利用者も参加してもらい、火災・防災に備えている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員はその人の生きてきた生きざまをよく理解し、「親しき仲にも礼儀あり」でその人の人格を揺るがすようなことやプライドを傷つける事のない様に気配りをしてコミュニケーションを取って対応している。	利用者一人ひとりの個性を尊重し、その方を思いやった対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	施設内での自己決定は本人の希望で行われている。間違った決定をされそうな時はよく分かる様に説明し理解してもらい自己決定をしてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	「ゆっくり・ゆったり」をモットーに日々の生活をして頂いているので、ご自身のペースでご希望に沿った支援をしている。		

グループホーム 縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	御自分の気に入られている洋服を御自分で選んで着て頂ける様支援を行っているが、夏に毛物や冬に春物を着たがられる方がおられると説明をして季節の服装をして頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や手伝いを職員と一緒にしたり、又職員が食後の片付けも声掛けをしながら出来る範囲で手伝ってもらっている。	食事は外部委託で、ご飯は、美味しい銘柄を選び、その都度精米してもらっている。時には、目先を変えて、手作りのお好み焼きや、おやつにホットケーキを作る事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	職員は日々の食事摂取量と水分摂取量をチェックし、一人一人の状態を知る事により支援している。暑い夏の日にはポカリゼリーを作り水分の確保に役立っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	出来る限り御自分で口腔ケアをして頂いて出来ない所は職員が仕上げをしている。くさりんブラシとマウスウォッシュを使用し口の中の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンを職員全員が把握し、声掛け誘導している。トイレでの排泄を気持ち良いと思われる様、職員は日々トイレ誘導をし自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を作成しており、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行い、自立に向けて、支援している。車椅子の方もトイレに誘導している。排便をすませた後、陰洗を行い、清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	一人一人の排便の形状を医師に報告し、排便コントロールの指示を頂いて自然に無理なく排便されるようにしている。今現在、入居者様は形状の良い便が出ている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回の入浴で洗身・洗髪を出来る限り御自分でして頂いている。仕上げは必ず職員が行い、ゆっくりと入浴して頂き個々に応じた支援をしている。	入浴は、週2回を基本にその日の気分や体調に合わせて全員浴槽に入って頂けるよう、二人介助の時もある。風呂嫌いの方も強要せずゆっくり声掛け、誘導して気持ち良く入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼食をゆっくり食べられて終わられると自室に入られ、ゆっくりとおやつまで横になられお昼寝をされている。夜は自室に入られ好きなテレビの番組を見られリラックスされており安心して眠れる様職員全員声掛けをしながら支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	○月○日の「朝・昼・夜」と名前を読み上げ、職員自身も確認し「ゴックン」確認し終わったら薬袋に職員名を記入し責任を持って薬の管理を行っている。		

グループホーム 縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	月に一度の誕生日会や入居者様が好まれるホットケーキを焼いたり、お好み焼きを焼いたり、職員と一緒に楽しむことが出来る様に計画を立てている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族の方と一緒に出かけられる方も少数いらっしゃいますが、そうでない方もいらっしゃいますのでホテルのお茶会や食事に必ず全員参加が出来る様医師と連携をとって体調管理をしっかりと行い、職員が計画を立て皆様の希望に応じられる様に支援している。	認知症カフェや法人母体のイベントに車を出掛けている。(夏まつり・敬老会・クリスマス会)、プリンスホテルにスイーツを食べに行ったり、リーガロイヤルでお茶会をしたり、近場の縮景園を散歩したりして出来るだけ外出の機会を持つようになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出した時に御自分でお財布を持って御自分で買い物出来る様職員の見守りの元、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙を書かれたら切手を職員が張り、投函を職員がして、手紙のやり取りが出来る様に支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様の共用空間のリビングで新聞を読まれたり、コーヒーを飲まれたり、談話をされたりと居心地の良い場を提供するためにクラシックをかけたたりしながら気分を和らげるように工夫している。	リビングルームには、クラシック音楽が流れ、大きなテーブルや椅子が配置され、ゆったり寛げる雰囲気づくりを工夫されている。日中の温度・湿度管理もされ、インフルエンザ予防に努めている。壁には、行事風景写真が、貼られ、会話のきっかけにもなっている。緑の観葉植物もバランス良く置かれ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室の隣同士で行ったり来たり施設内での近所付き合いをされ、楽しく自由に過ごせる様職員は見守りをしながら過ごしてもらっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	御自分の好きな物を持って来られ今までと同じ環境に似た状態で日々の生活が出来るように工夫し、御家族の協力も得ている。	備え付けのペット・タンス・テレビが置かれ、自分にとって馴染みの日用品や家族写真等、手が届き、使いやすいよう配置され、一人ひとりの好みの部屋になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	御自分の部屋が生活しやすい様に、又、今迄使っていた物を居室に入れ、なるべくいつもと変わらない様に安心して過ごせる様御家族と相談し工夫して居室作りをする様心掛けている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム 縮景園

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム縮景園

作成日 平成 31 年 3 月 23 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	高齢の為か急に体調を崩される方がいらっしやり、入院となる方が多かったです。	急変にもすばやく対応出来る様、日頃から研修を活かした医療と介護の連携をより一層しっかりとやっていける様にする。	日頃より医療との連携を大切にできていた為大事に至らなかったが常に冷静に判断出来る様にスキルアップする様に全員で心掛ける。	12ヶ月
2	38	認知症の進行が急に早くなり暴力的になられたり暴言があったり対応が大変になっている。	不安のない安心な生活を送れる様落ち着かれる生活をしてもらう。	常に職員が側に寄り添い日々の生活を安心して過ごしていただける様、コミュニケーションをしっかりととりながら支援する様心掛ける。	12ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。